

京成本線沿線整備アンケート調査

「京成本線沿線の整備とまちづくり」に関する市民アンケート調査

- 調査の要約 -

1 アンケート調査の概要

1.1 アンケート調査の目的

本アンケート調査は、市民の意向を反映した京成本線沿線整備検討のための基礎資料とすることを目的とする。

1.2 アンケート調査の概要

調査は、市内在住の満16歳以上を対象に3,000人を無作為に抽出し、郵送によるアンケート発送及び郵送回収の方法とした。

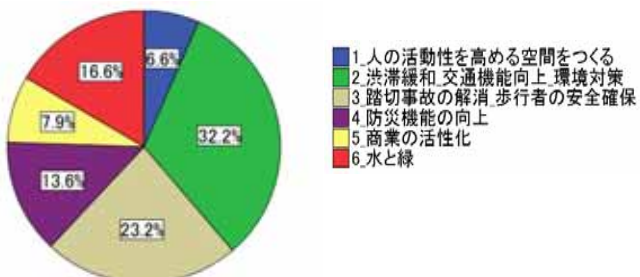
2 アンケート調査の実施

アンケート調査の実施内容は、以下に示すとおりである。

調査対象者	市内全域に在住の満16歳以上の市民を対象
対象者の抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出
対象者の抽出件数	3,000件
アンケート発送件数	2,982件（18件が転居等により返送）
アンケート回収件数	932件（回収率：31.1%）
アンケート実施期間	平成19年12月6日から平成20年1月31日

3 アンケート調査結果の概要

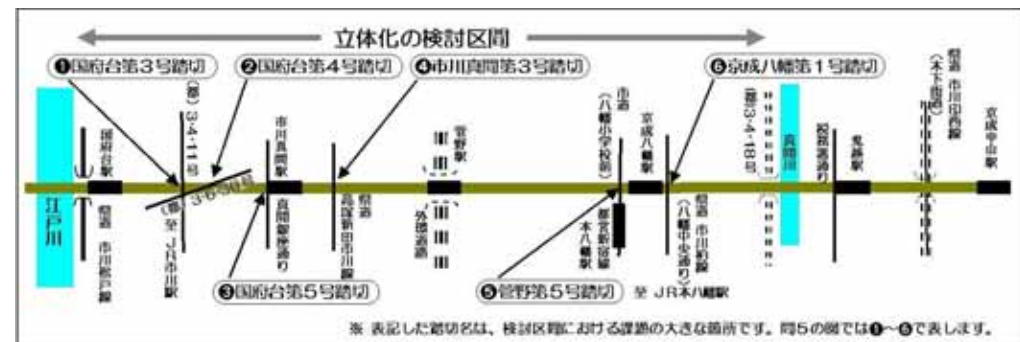
問 「ゆとり」を生かしたまちづくりを進めるための6つの目標のうち、あなたは何が大切だと思いますか。（複数回答可）



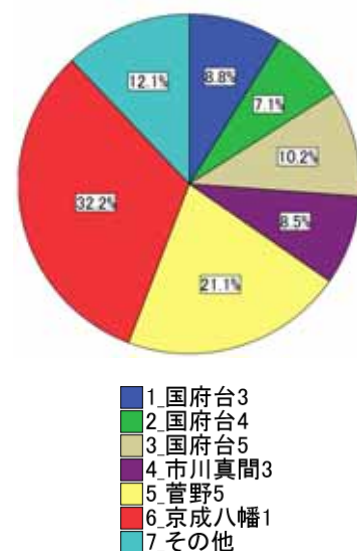
問 まちづくりに大切な次の項目のうち、京成本線沿線のまちづくりにとって、あなたは何が大切だと思いますか。（複数回答可）



問 あなたが課題を感じる踏切はどこですか。下記の図を見て、回答欄の該当する踏切の番号または「その他の踏切」に印を付けてお答えください。（複数回答可）

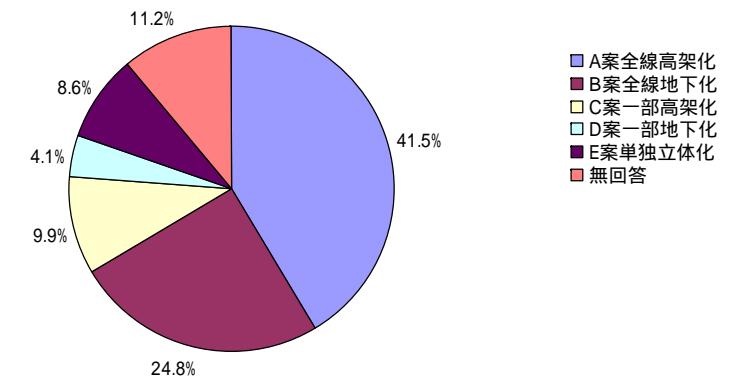


- 課題を感じている踏切は、「京成八幡1号（自動ボトルネック踏切）」及び「菅野5号（歩行者ボトルネック踏切）」の順となり、何れも京成八幡駅に隣接する抜本対策が必要な踏切となっている。
- 特に自動車交通量の多い「京成八幡1号」踏切（約67,000台時/日）は、回答者の65%以上が課題を感じると回答している。

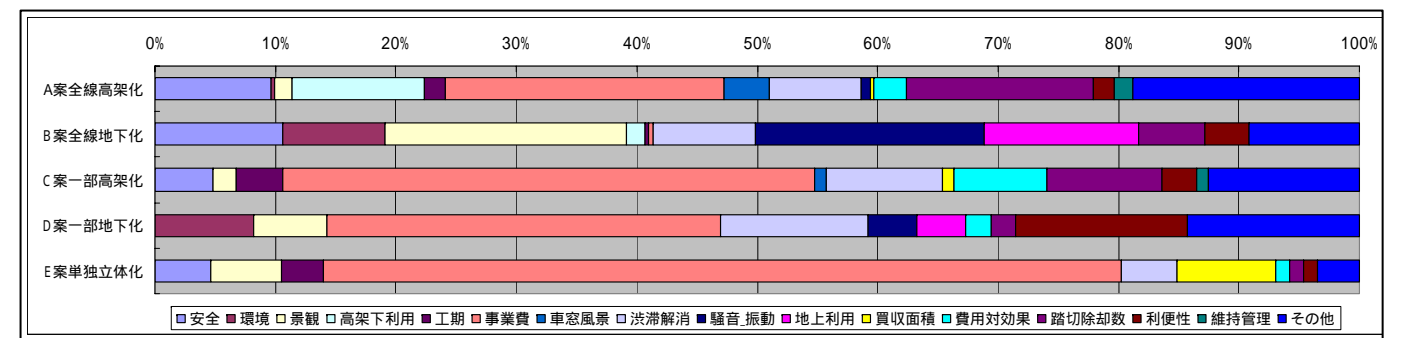


問 望ましいと思う立体化の案について、A～E案の中から順位を3つまで選び、をつけてお答えください。また、1番に選んだ理由をご記入ください。

1番よいと思う案の回答



1番よいと思う理由（自由記入の内容からキーワードを抽出）



4 まとめ

(1) 集計結果から見た回答の全体的な傾向

まちづくり

まちづくりにおいて大切なことはなにかについては、「渋滞緩和、交通機能向上、環境対策」「踏切事故の解消_歩行者の安全確保」を選択する回答者が多く、現実的な生活環境や安全性の改善を求めていることが伺えた。

京成本線沿線のまちづくりにおいても「安全_安心な生活環境」、「人にやさしい交通環境」を選択する方が多く、同様に、身近な生活環境の問題の改善を求めていることが伺える。

立体化案に対する回答

立体化案に対しては、全線高架案が最も多く、次いで全線地下案であった。これについては、自由記述回答において事業費の問題を取り上げていた回答者の多くが、全線地下化案以外を選択しその理由としていた。

なお、市全域の回答の整理結果と沿線住民の整理結果を比較すると、各案の回答数の順位に違いはなかったが、沿線では全線地下案を一番良いとした回答の比率が、沿線外と比較して多くなっていた。このことと、自由回答の内容の傾向から、沿線の住民のほうが、生活環境を意識している人が多いことが伺える。

（上記のクロス集計棒グラフ参照）

(2) クロス集計結果から見た特徴

立体化案（5案）の選択と他の回答との相互の関係を把握するため、クロス集計を行った。

その結果、立体化案の選択における上記のような違いが見られたが、全体的な傾向に大きな差異は見られなかった。

(3) 自由回答から見た市民の関心

全体的に見ると現状の交通状況の改善に対する期待と自然、景観、文化などの保全に対する意識の双方を見ることができた。また、事業費や交通状況の改善において、住んでいる場所により多少の違いはあったものの大きな違いは見られなかった。